

位置と環境

遺跡は町の中央部役場から北東に約1.5kmのところで、肝属川および高山川により形成された沖積地に突き出した標高約20mの舌状台地上にある。町立養護老人ホーム国見園の北にあたる。

調査の経緯

本古墳群は、円墳8基と地下式横穴墓数基が知られるが、宅地化等のために削手を受けている。四号墳は昭和57年に確認調査が実施されている。

遺構と遺物

確認調査の結果、盗掘を受けた痕跡があり、副葬品の有無については明らかにできなかった。主体部は軽石製組合石棺である。この軽石製組合石棺は当地域にある地下式横穴墓に使用される石棺と同様のもので、高塚墳と地下式横穴墓が密接な関係にあることを示す貴重な資料である。

地下式横穴墓は横間地下式横穴墓群とされているが、古墳群とほぼ同じ場所にあり、これまでに道路工事や宅地造成等によりこれまでに11基が発見されている。工事中に発見されたため詳細の不明なものが多い。

1号墓は、玄室内にあった軽石製組合石棺が残されているもので墓刀子1と土師器1が副葬されている。

2号墓～6号墓は昭和29年・30年に畑地を宅地化するために発見されたものである。

2号墓は、形状や副葬品も不明で、3号墓は、玄室が長さ220cm、幅70cm、高さ25～30cmで、羨道部および竪穴部は不明であるが、副葬品は豊富で蕨手刀、刀子1、鉄鏃2、須恵器坏1等がある。

4号墓は玄室が長さ225cm、幅70cm、高さ40cmを測り、竪穴部および羨道部は不明で、人骨は頭蓋骨が残り、副葬品は鉄鏃2である。

5号墓は、玄室が長さ182cm、幅92cm、高さ40cmを測り、羨道部の取り付けは平入りで、羨道部の閉塞は土塊による。人骨は1体（頭位は北）で、副葬品は直刀3、刀子1である。



第1図 横間古墳群の位置

6号墓は、形状は不明であるが、須恵器の高坏2、土師器坏1が副葬されていたという。

7号墓～11号墓は、形状が不明なもので、7号には直刀、8号には直刀、土師器、9号には直刀、馬具、貝釧、10号には刀子、11号には、刀子がそれぞれ副葬されている。

特徴

鹿児島県内の地下式横穴墓では土器等を副葬しているものは少ないが、横間地下式横穴墓群では須恵器、土師器を副葬しているものが多いことが注目される。

また、これらの副葬品から7世紀頃とやや新しいもので地下式横穴墓の下限を考える資料となる。さらに、3号墓では蕨手刀が副葬されており、8世紀まで下がる可能性を示唆するものである。

資料の所在

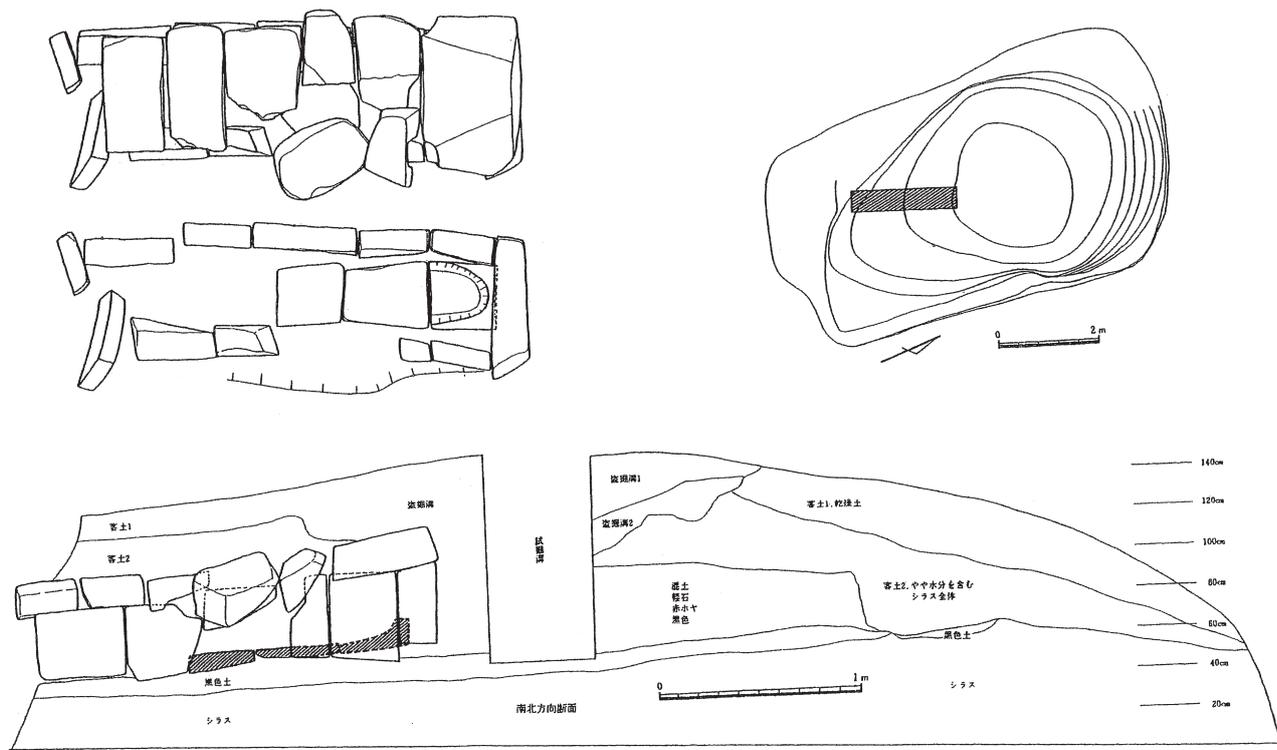
住宅地域の中にありかなり損傷を受けている。

出土した蕨手刀は、鹿児島県歴史資料センター黎明館に保管されている。

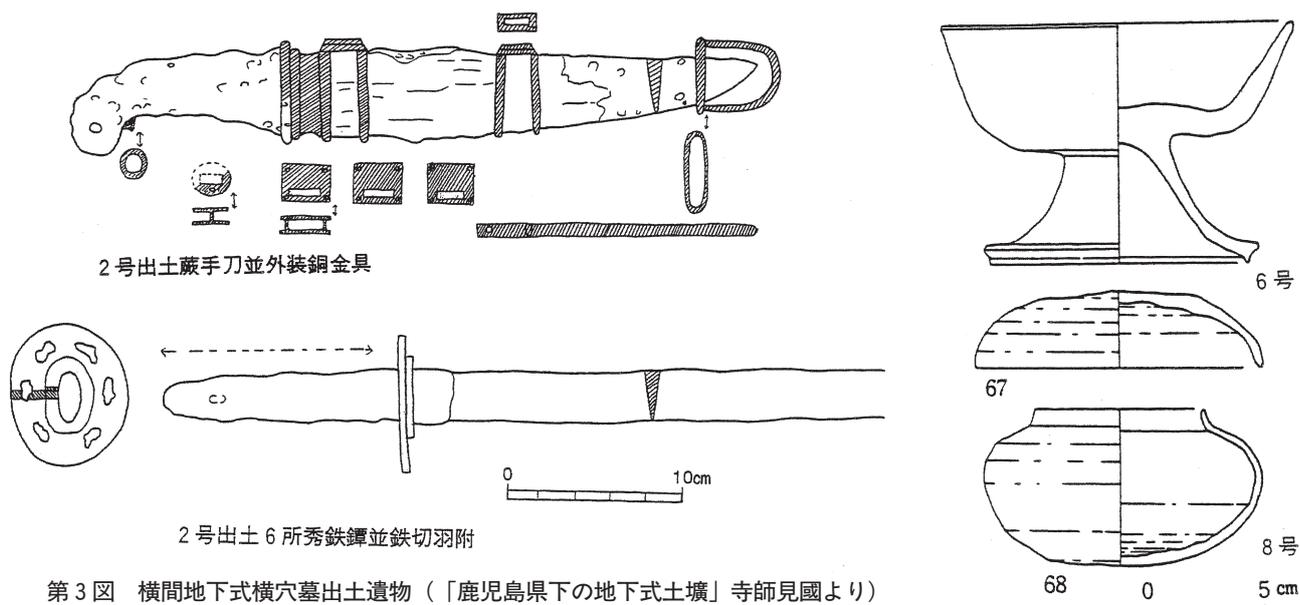
参考文献

- 寺師見國1957「鹿児島県下の地下式土壙」『鹿児島県文化財調査報告書』4
- 高山町1997『高山郷土誌』
- 上原遺跡の報告書に掲載

(新福 深)



第2図 5号墳実側図



第3図 横間地下式横穴墓出土遺物（「鹿児島県下の地下式土壙」寺師見國より）

第4図 横間地下式横穴墓出土須恵器